

⑦2024年度 人間学研究科

PLAN(計画) ➡2024年4月までに	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
B'sVision2029の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図る。具体的には、教育力日本一および永久ポート大学の観点から以下に各コースにおけるPLAN(計画)を策定する。	
社会福祉学コース 新メンバーによる授業の充実 学生の自主的な学習態度の育成 ・特別研究担当教員の減少を受けて、修士論文指導体制の検討 ・多様な学生の自主的な学習体制を構築する指導 ・院生の学会発表に向けての指導 ・ランゲージサロンとの教育サポート連携の構築 ・修了生、上級生下級生の交流の充実	
臨床心理学コース ・公認心理師、臨床心理士養成のための教育の充実化 ・公認心理師試験の合格 ・院生の研究力強化 ・実践的に活動できる人材育成に向け、教育・実習を充実 ・公認心理師試験の合格率:全体平均以上の合格率 ・学会入会、学会発表、論文執筆を働きかける	
保育学コース ・コース学生の確保として、特に科目等履修生の募集と共に受講生へのコース入学の促進 ・幼稚園専修免許状取得、並びに臨床発達心理士の受験資格に関する広報、及び免許資格取得の支援 ・高度な専門的人材の育成に関する実績アピールとそれを保障するためのコース運営	
・修了後の進路状況の広報等により専門性の高い研究・学習の機会となることをアピールする。 ・保育学コース科目等履修リーフレット等を確認し、免許資格関連科目にして広報する。 ・幼稚園専修免許状及び臨床発達心理士科目について高度専門性に資するコース開設科目及び担当教員について検討し、必要に応じてカリキュラム改訂を行う。 ・学生の研究・学習計画やキャリアデザインを尊重した指導等に関する研修を行う。	

DO(実施)	
D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)
各コースB'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図るためPDCAサイクルとリンクさせながら最重要課題及び達成目標を掲げた。	100%
新メンバーによる授業を滞りなく実施した。修士論文担当教員を1名増員した。多様な学生が研究を教員に頼るという背でなく、自主的に進めていった。ランゲージサロンでの安定した相談体制ができた。2年生が修論の途中経過を学会で発表できた。修了生、上下級生の交流は研究報告会が主であった。	98%
・公認心理師・臨床心理士養成のための教育の充実化として臨床心理学コースおよび臨床心理相談センターの研修会(事例検討会含む)を2024年度も継続実施した。 ・公認心理師試験合格に向けて「合格者体験会」を今年度も実施した。 ・院生の研究力強化の基礎となる学会入会、学会発表、論文発表を促した。	100%
今年度も科目等履修生が通年で在籍し、臨床発達心理士資格の受験に向けた相談等の対応も行った。コース学生及び科目等履修生募集の広報に関しては、大学HP/リニューアルに併せた内容の見直しを行なった一方、科目等履修生募集用リーフレットの实習先への配付は実行し最新の情報を掲載した	科目等履修生及び聴講生が前期・後期に在籍(100%)。HP/リニューアルを実施し。リーフレット改訂及び配布実施(100%)。
保育学コースで開設科目及び担当教員について検討及び変更を行った。保育・教育領域に関する現代的事項を踏まえ、幼稚園教諭専修免許状及び臨床発達心理士科目に関する科目を充実させた。コース教員で検討会議と共に大学院FD等の機会に、学生指導及びコースの将来構想について意見交換等をした。	コース会議及びFD研修会の実施。 担当科目・教員の検討し追加を行った。 (100%)。

CHECK(評価)	
C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う	
評価	評価の理由/課題/根拠データ等
すべての最重要課題及び達成目標項目をクリアすることはできなかったが、到達に向け教員組織と事務局が協働しながら丸となって取り組んだ点は評価できる。	研究科委員会議事録
新メンバーで魅力的な教育内容に近づいている。自主的な学習環境の構築については、ランゲージサロンや外部団体の協力も得て、その文化が出来上がりつつある。	授業アンケート結果 修士論文、修士論文計画発表会資料 産業・組織心理学大会発表論文集
・臨床心理学コースおよび臨床心理相談センターの研修会(事例検討会含む)は計17回予定していたが、全て予定通り実施した。 ・公認心理師試験の新卒者合格率は70%(10人中7人合格)であり、全体平均66.9%を上回った。 ・例年学会入会者が少なかったが、今年度はM1が多く学会に入会したことにより、いずれかの学会に入会している院生は全体(M2+M1)で46%になった。	根拠データは厚生労働省の令和6年度公認心理師試験結果、および院生へのアンケート結果等
科目等履修生・聴講生の在籍はあったが、例年よりも少なく、次年度はコース学生及び科目等履修生は未定。募集リーフレットの作成及び配布を準備する共に、大学HP以外の媒体(パンフレット等の作成)を提案していく。	学生数・履修登録数。大学HP。
新規科目を開設し、履修学生に対して指導を行った。科目担当教員を選定し、次年度より担当いただくこととなった。幼稚園専修免許状希望者、並びに臨床発達心理士資格希望者がそれぞれの科目を受講した。	新カリキュラムに関する書類。大学院FD資料。

ACITON(次への改善)	
A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる	
具体的な且つ各論となる課題や問題点についてはクリアできたが、中・長期的課題、いわゆる「永久サポート大学」や「教育力日本一」については半永続的な視点となるため、継続的に「PLAN」として掲げていきたい。	
上下級生の交流による研究に対する意識の向上	
学会参加を含む、外部との研究交流や発信、フィールドワーク等の開かれた教育の実践。	
・質の高い公認心理師・臨床心理士養成のために学生および修了生を対象に授業以外の多数の研修会を設けて充実した教育が行うことができたが、院生の負担も考慮して継続していきたい。 ・新卒者の公認心理師試験の合格率について、来年度も全体平均を上回るように指導したい。 ・M2の学会入会率が低かったのが残念であるが、M1の学会入会率がのびたことで全体として46%にいたった。来年度のM1にも積極的に学会入会を働きかけて全体として50%以上を目指したい。	
人間学研究科並びに保育学コースに係るポリシーの検討を実施。また保育学コースの院生募集について、本コース会議や人間学研究科委員会、FD研修会で検討し、対応可能なものから実施することが必要である。	
今後も継続したコース・カリキュラムの充実に向けて、科目開設及び担当教員の検討を行うと共に、学生指導等に関する研修や情報共有を行う。	

⑦2025年度 人間学研究科

PLAN(計画) ➡2025年4月までに	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
B'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図る。具体的には、教育力日本一および永久ポート大学の観点から以下に各コースにおけるPLAN(計画)を策定する。	
社会福祉学コース ・新メンバーによる授業の充実。開かれた教育の実践による学生の研究体制の構築。 ・上下級生の交流による研究に対する意識の向上 ・学生の学会、研究会への参加 ・学生の外部との研究交流 ・学生が地域の機関や団体との関係を持つことで、社会的な見識を高め、研究に反映させる。	
臨床心理学コース ・公認心理師、臨床心理士養成のための教育の充実化 ・公認心理師試験の合格 ・院生の研究力強化 ・実践的に活動できる人材育成に向け、教育・実習を充実させる。 ・公認心理師試験の合格率について全体平均以上の合格率を目指す。 ・学会入会(50%以上)、学会発表、論文執筆を働きかける。	院生中心の教育および学修成果の可視化に結び付けるため、現場の声を聴き参画を促す。学生による授業アンケートやFD研修会の改善を行い教職協働のシステムを取り入れ運用面に活かす配慮をする。
保育学コース ・コース学生の確保として、特に科目等履修生の募集と共に受講生へのコース入学の促進 ・幼稚園専修免許状取得、並びに臨床発達心理士の受験資格に関する広報、及び免許資格取得の支援 ・高度な専門的人材の育成に関する実績アピールとそれを保障するためのコース運営 ・修了後の進路状況の広報等により専門性の高い研究・学習の機会となることをアピールする。 ・保育学コース科目等履修リーフレット等を確認し免許資格関連科目にして広報する。 ・幼稚園専修免許状及び臨床発達心理士について高度専門性に資するコース開設科目及び担当教員について検討し、必要に応じてカリキュラム改訂を行う。 ・学生等の研究・学習計画やキャリアデザインを尊重した指導等に関する研修等を行う。	

内部質保証： 3ポリシーに則った適切な研究科運営	3ポリシーに則った適切な研究科運営が図られるために、各月第1週目水曜日の大学院運営協議会にて審議を行い、研究科委員会にて審議及び報告を行いながらコース毎の適切な運営を図った。外部評価委員会から助言を得て改善に取り組んだ。大学基準協会への中間報告及び評価を受けた。	3ポリシーの改定と実践 100%	研究科委員会にて教育課程の体系化(ナンバリング及びカリキュラムマップの作成)、特定課題の研究成果を認める制度を廃止し修了要件から当該審査を削除。修士論文を修了要件とした。院生の受け入れ方針改善のため3ポリシーを新たに策定。上記について、大学基準協会から改善が認められるとの評価を得た。	履修事項TOP 大学運営会議資料及び議事録 外部評価委員会議事録 大学基準協会改善報告書検討結果委員会案	定員管理については継続的な正事項として取り組む必要がある。 3年前のFD研修会において、院生からの声(現状と課題)を聴取(動画作成)し、その情報を基に研究科委員会のこれからを検討した。このような院生の声(現場の声)に耳を傾け、それを運用面に活かすようなシステムを構築することにより研究科の運営が図られる。	
教学IR： FD研修会の実施	人間学研究科FD研修会の実施。テーマ「地域におけるリカレント教育と大学院の役割」(11月13日<水>)実施。	100%	文部科学省大学政策「私学等改革総合支援事業タイプ3」及び中教審「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方に関する中間まとめ」を基礎資料とし、大学院における社会人教育の役割と課題を提示し、それを基に各専攻・コースでの社会人教育の方向性について議論が深まったことは	人間学研究が 議事録 FD研修会議事録及び報告書	FD研修会の中で「履修証明プログラム」の可能性が示唆された。今後はそれを具体的なプログラムとして提供し、地域におけるリカレント教育の推進を図る必要性がある。同時に、履修証明プログラムは大学院の正規入学にも繋がる「誘い」としての位置付けにもなろう。	教学IR： FD研修会の実施